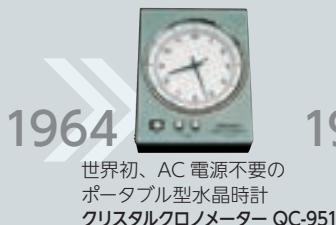


エプソンブランド制定40周年

エプソンは、創業以来磨き続けてきたコア技術である「省・小・精の技術」をベースに、世界中の人々に驚きや感動をもたらすエプソンらしい商品の開発に取り組んでまいりました。これまで多くのステークホルダーの皆さまにエプソンをご支持いただき、エプソンブランドは2015年でその制定から40周年を迎えることができました。心より御礼申し上げます。

ここでは、エプソンの創立以来の歩みを振り返り、エプソンのルーツやブランドに込められた意味をご紹介しますとともに、今後のエプソンが目指す姿をご紹介します。



エプソンのルーツ

エプソンは、長野県諏訪市大和(おわ)の地で時計用部品の製造を行っていた(有)大和工業(だいわこうぎょう)をルーツとしています。エプソンは、1942年の創立以来、ものづくり企業としてのDNAを受け継ぎ、ウォッチ開発で培われてきた超微細・精密加工技術を磨き続けることで、独自のコア技術を生み出してきました。



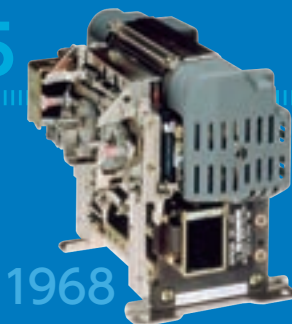
エプソンの前身、(有)大和工業

情報関連機器事業の誕生

今では、エプソンの大きな柱となっているプリンター事業を手掛けるきっかけとなったのがスポーツ競技用電子記録システムの開発です。この電子記録システムは競技記録の計測と、記録の即時印刷を可能にした当時では画期的な装置でした。この電子記録システムのプリント機構をベースとして1968年に完成したのが、世界初の小型軽量デジタルプリンター「EP-101」です。このデジタルプリンターの成功により、その後の業容拡大の基礎を築くことができました。

エプソンブランドとは SINCE 1975

1970年代に入ると、さまざまなコンピューター周辺機器を市場に投入し、情報機器事業領域へ積極的に進出していくこととなりました。デジタルプリンターでは高い市場シェアをいただくようになっていましたが、完成品・最終商品を世界中のお客様に販売するうえで、独自のブランドが必要となり、1975年6月12日にエプソンブランドを制定しました。「EPSON」という



1968

世界初の小型軽量デジタルプリンター
「EP-101」

ブランド名称は、事業領域を広げる発端となった「EP-101」が由来です。「EP(Electric Printer)」が新しい価値をお客様に提供したように、これからも継続して、さまざまな分野で価値ある製品・サービスである子ども、「SON」を多く生み出していこうという思いが込められています。

EP + SON = 「EPSON」

1969



世界初のクォーツウォッチを実現した音叉型
水晶振動子

センシング

1983



ウォッチ組み立ての自動化から始まった
精密組立ロボット

ロボティクス
新たなコア技術

1989



鮮明な色表現を実現した
液晶パネル搭載の
液晶ビデオプロジェクター

マイクロ
ディスプレイ

1993



積層ピエゾヘッドを搭載した
インクジェットプリンター

マイクロ
ピエゾ

ブランドを支えるコア技術

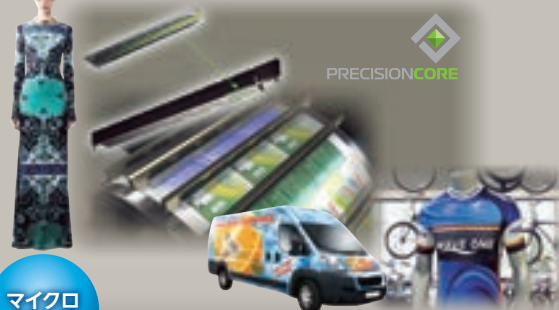
エプソンのものごとに取り組む姿勢に「誠実・努力」、「創造と挑戦」があります。これまでも、いくつもの画期的な製品を生み出してきましたが、その実現のためには、当時の技術水準を超える必要がありました。そのような時も、「世の中になく技術ならば自分たちで作ればいい」と考え、誠実に努力を積み重ね、また創造と挑戦を繰り返すことで技術を革新してきました。現在のコア技術となっ

ている、「マイクロピエゾ」、「マイクロディスプレイ」、「センシング」、「ロボティクス」は、こうした取り組みにより生み出され、今も磨き続けられているのです。

次ページでは、コア技術を基に、「プリンティング」、「ビジュアルコミュニケーション」、「生活の質向上」、「ものづくり革新」の領域でこれからのエプソンが目指す姿をご紹介します。

エプソンが実現する“Exceed Your Vision”

先端のプリントヘッド技術「PrecisionCore」で、
印刷・捺染業界の業務プロセスを変える。



マイクロ
ピエゾ



プリンティング

「プリンティング」の領域では、さまざまな種類のインクを多様なメディアへ印刷できるマイクロピエゾ技術により、あらゆるプリントをインクジェットで行うことを目指します。家庭向けプリンター、オフィス向けプリンターだけに留まらず、商業領域や産業領域での展開も進んできました。

今後、高速・高画質性能を進化させたプリントヘッド技術「PrecisionCore」を最大限に活用することで、印刷・捺染業界の業務プロセスを革新し、インクジェット技術の用途もさらに拡大していきます。

マイクロディスプレイ技術により、
コミュニケーションのあり方を変革する。



マイクロ
ディスプレイ



ビジュアルコミュニケーション

「ビジュアルコミュニケーション」の領域では、高精度・小型のマイクロディスプレイ技術により、コミュニケーションのあり方を変革します。さらに3Dやインタラクティブの技術を極めることで、遠く離れた場所にいる相手とも、同じ立体映像を空間に映し出し共有するなど、臨場感のあるコミュニケーションの実現を目指します。

またシースルー型スマートグラス「MOVERIO」は、個人で映像を楽しむ用途に加え、業務用途への展開も進め、仕事のやり方自体を大きく変えていきます。

「創造と挑戦」の技術革新でお客様の期待を超える

高精度のセンシング技術により、
人々の健康や安全に貢献する。



センシング

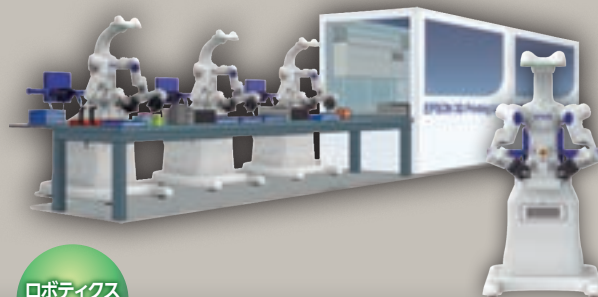


生活の質向上

「生活の質向上」の領域では、半導体・水晶デバイスの融合から生まれたセンシング技術と、ウオッチ事業を有するエプソンの強みを生かし、人々の健康や安全な生活基盤を築くことに貢献します。

高精度センサー搭載のウェアラブル機器により、健康やスポーツに役立つアドバイスをを行い、産業用の高精度センシングシステムをさまざまな建造物に組み込むことで、建造物の状態をモニタリングし、安心・安全な暮らしを送れる社会の実現に貢献していきます。

ロボティクス技術により、生産の自動化を進め、
ものづくりのあり方を革新する。



ロボティクス
新たなコア技術



ものづくり革新

「ものづくり革新」の領域では、ロボティクス技術により生産現場の自動化を進め、ものづくりのあり方を革新していきます。

エプソンがロボティクス技術を集約し開発している「自律型双腕ロボット」は、見て、感じて、考えて、働くロボットです。今までのロボットでは困難だった作業の自動化を行い、人がもっとクリエイティブなことに時間を使える世の中を実現していきます。さらにロボットが組み立てる部品も、エプソンの3Dプリンターにより、適宜、製造することを目指していきます。

地震発生時のビルの揺れやねじれを検出し、安全性を解明する研究に、エプソンのセンシングシステム技術が貢献

エプソンは独自のコア技術を基盤として、「プリンティング」、「ビジュアルコミュニケーション」、「生活の質向上」、「ものづくり革新」という4つの領域で、世界を変えることを目指し、独創の製品・サービスの開発に取り組んでいます。

ここでは、人々の「生活の質向上」に向けた取り組みとして、地震に対する建物の安全を測るための国家プロジェクト研究に貢献している事例をご紹介します。

首都直下地震や南海トラフ地震など、都市部で発生が懸念される巨大地震に対して、建物がどの程度耐えられるのか、損傷はどの程度なのかを検証する実証実験が、文部科学省の委託研究の一部として、兵庫県三木市の実大三次元震動破壊実験施設「E - ディフェンス」*で行われました。

2013年12月に行われた1回目の実験は、18階建てビルの3分の1に相当する高さ25メートルの鉄筋構造物に、南海トラフ地震の想定を上回る振動を加える大規模なもので、建物の各所の動きをモニタリングするのに使われたのが、エプソンの慣性計測ユニット(IMU)を組み込んだセンシングシステムでした。

さらに、2015年1月に行われた2回目の実験では、中高層のマンションを想定した鉄筋コンクリート造6階建ての構築物を30%に縮小した試験体(高さ6.5メートル)に、

阪神・淡路大震災での振動波形を増幅して振動を加えました。前回は鉄骨だけだったところ、コンクリートの壁もつけた建物での実験により、実際により近いデータを集める狙いがありました。なお、建物が崩壊するまで加振したという点では、国内初となる実験でした。

試験体には、158台のIMUをベースにしたエプソンのセンシングシステムをはじめ、複数のセンサーが取り付けられ、加振後の試験体の損傷程度をモニタリングしました。

各センサーで計測したデータは、京都大学や清水建設株式会社などにより分析され、震災時の建物の安全確保に生かされます。



試験体に取り付けられたエプソンのセンシングシステム



*E-ディフェンスは、国立研究開発法人 防災科学技術研究所が所有する世界最大級の耐震実験施設(三次元震動台)で、1995年の阪神・淡路大震災を契機に建設が決まりました。



慣性計測ユニット(IMU)とは

直進方向の動きを検出する加速度センサーと、回転を検出するジャイロ(角速度)センサーを搭載し、物体の動きを三次元で正確に計測するユニットで、建物に加わる振動だけでなく、ねじれも検出可能。

商号	セイコーエプソン株式会社 (SEIKO EPSON CORPORATION)										
創立	1942年5月18日										
本社	〒392-8502 長野県諏訪市大和三丁目3番5号 TEL: 0266-52-3131 (代表)										
本店	〒163-0811 東京都新宿区西新宿二丁目4番1号新宿NSビル TEL: 03-3348-8531 (代表)										
資本金	532億4百万円										
従業員数	連結: 69,878人 単体: 11,810人 所在地別 連結従業員数 割合 <table border="1"> <caption>所在地別連結従業員数割合</caption> <thead> <tr> <th>地域</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>日本</td> <td>26.6%</td> </tr> <tr> <td>アジア・オセアニア</td> <td>66.2%</td> </tr> <tr> <td>米州</td> <td>4.2%</td> </tr> <tr> <td>欧州</td> <td>3.0%</td> </tr> </tbody> </table>	地域	割合	日本	26.6%	アジア・オセアニア	66.2%	米州	4.2%	欧州	3.0%
地域	割合										
日本	26.6%										
アジア・オセアニア	66.2%										
米州	4.2%										
欧州	3.0%										
グループ会社	94社 (当社含む国内21社、海外73社) 仕向地域別 売上収益割合 (2014年4月～ 2015年3月) <table border="1"> <caption>仕向地域別売上収益割合 (2014年4月～2015年3月)</caption> <thead> <tr> <th>地域</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>日本</td> <td>25.4%</td> </tr> <tr> <td>アジア・オセアニア</td> <td>25.3%</td> </tr> <tr> <td>米州</td> <td>28.0%</td> </tr> <tr> <td>欧州</td> <td>21.3%</td> </tr> </tbody> </table>	地域	割合	日本	25.4%	アジア・オセアニア	25.3%	米州	28.0%	欧州	21.3%
地域	割合										
日本	25.4%										
アジア・オセアニア	25.3%										
米州	28.0%										
欧州	21.3%										

決算期	3月31日
定時株主総会	6月
期末配当金支払株主確定日	3月31日
中間配当金支払株主確定日	9月30日
株主名簿管理人	〒100-8212 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
未払配当金の支払い、支払 明細発行のお問い合わせ先・ 郵便物送付先※1	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 TEL: 0120-232-711 (通話料無料)
特別口座管理機関	〒103-8670 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
特別口座に登録された株式に 関する各種お手続きのお問い 合わせ先・郵便物送付先※2	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 TEL: 0120-288-324 (通話料無料)
公告掲載方法	電子公告により行う。ただし、事故その他やむ を得ない事由によって電子公告による公告を することができない場合は、日本経済新聞に 掲載して行う。
公告掲載アドレス	http://www.pronexus.co.jp/koukoku/6724/6724.html

- ※1 住所氏名変更・配当金振込先指定(変更)等の事務手続きについては、お取引の証券会社等にお問い合わせの上、所定の変更届等を提出してください。
- ※2 特別口座にて管理されている単元未満株式(100株未満)の買取りの際には、買取請求書を上記「みずほ信託銀行株式会社 証券代行部」にご請求の上、同行にて所定の手続きを行ってください。

<MEMO>

<MEMO>

Handwriting practice area with 20 horizontal dashed lines.

<MEMO>

Handwriting practice lines consisting of 20 horizontal dashed lines.

第73回定時株主総会 会場のご案内

会場

シェラトン都ホテル東京 地下2階 だいご「醍醐」

東京都港区白金台一丁目1番50号

電話：03-3447-3111 (代表)

株主総会会場は、下記案内図をご参照ください。

交通のご案内

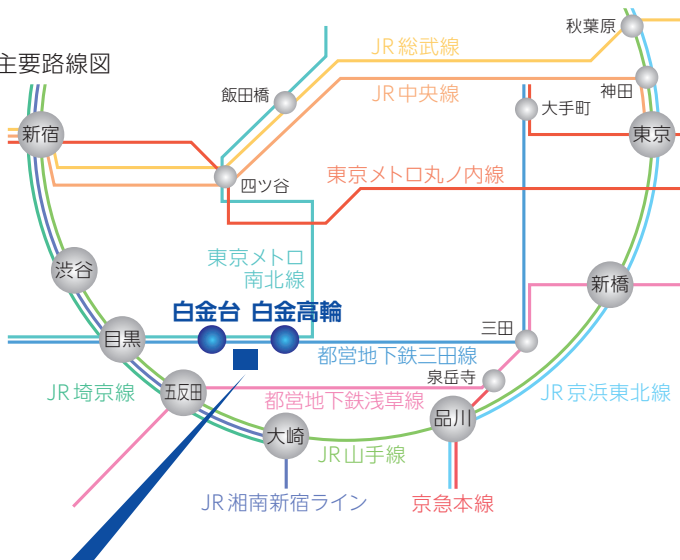
● 東京メトロ南北線 ● 都営地下鉄三田線

白金台駅 2番出口より徒歩4分

白金高輪駅 1番出口より徒歩5分

※駐車場のご用意はいたしておりませんので、
ご来場の際は公共交通機関をご利用ください。

主要路線図



セイコーエプソン 株式会社

ホームページアドレス <http://www.epson.jp>



この招集ご通知は、FSC®認証紙と、環境にやさしい
植物油インキを使用して印刷しています。

見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。